

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成 23年 6月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770902233		
法人名	社会福祉法人 松輪会		
事業所名	高槻黄金の里グループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府高槻市黄金の里一丁目14番8号		
自己評価作成日	2011.04.01	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1 四天王寺堀越ビル
訪問調査日	平成23年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成17年4月に開設いたしました。経営母体である、社会福祉法人松輪会の理念にありますように、「安心・安全・やすらぎ・ふれ愛」を大切に、心を込めたサポートをめざし、運営いたしております。今まで当法人では、特別養護老人ホームを中心に運営してまいりましたが、法人初の認知症対応型共同生活介護を実践するにあたりまして、スタッフ一人ひとりが、認知症介護のプロフェッショナルをめざし、管理者をはじめ、計画作成担当者、介護スタッフが、外部の認知症研修に参加し、内部でも、認知症基礎研修や事例検討を通して、認知症への理解を深められるよう取り組んでおります。また、入居者お一人おひとりの、心身の状況を把握するため、ご家族様との連携の強化、認知症疾患センターとの連携の強化に取り組んでいます。特に、医学的理解を深めるため、介護経験の豊富な専任の看護師を配置し、24時間体制で、入居者の生活を支援する体制をとっております。平成21年11月25日実施の高槻市介護保険課による実地指導でも、「入居者の視点に立ち、入居者の暮らしの状況及び心身の状況を的確に把握し、ケースに応じた介護サービスのきめ細やかな提供が感じられました。」という評価を戴いております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>高槻市の中心部よりほどなく、小高い丘の上にある自然豊かで、近隣には地域のレクリエーションスポットもあります。また、ホームのテラスからは大阪の景色が一望でき、ホーム内も高級感があり、一流のホテルのような設えと家庭的な生活空間を備えており、スタッフの接遇も行き届いており、認知症を始め様々な研修が適宜行われている様子がうかがえます。</p> <p>法人規模が大きく、様々な種類の事業を展開しており、グループホームだけではないところが大きな強みでもあります。地域の方々も頼りにされている様子がうかがえます。ホームの中では各事業間の連携が取られており、医療機関との連携も密に取られているため安心できる体制です。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時、法人理念を音読し共有している。個々のケアを検討する場面では、計画作成担当者だけでなく、管理者も立会い、常に理念に沿った計画であるかを検証し、実践につなげている。	法人理念の「安心・安全・やすらぎ・ふれあい」を共有し、日々のケアに反映されています。今後の課題として、選択の幅を広げ、自由度の高さを出すことを希望されています。	「ホームらしさ」を目標とされていますので、法人理念とは違った、ホームの生活に寄り添った理念を考えられてみてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブや地域のイベントへの参加。地域のボランティアを通し、かかわりを持ち、地域で活動できるようにしている。しかし、立地条件等、十分に溶け込むには時間が係る。	母体施設建設の時から、自治会を通して理解を得ており、運営推進会議への出席など運営に協力的です。また、地域の中での行事参加も行っており、日常的な交流は盛んに行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講師派遣の依頼や、施設実習の依頼にたいしては、その都度、対応している。また、家族懇親会などでは、認知症に対する正しい理解を得るため、学習会を行ったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員や、自治会の会長などに出席していただき開催しているが、ホーム側からの発信に終わっており、地域からの情報提供などはない。また、サービスの向上の直接つながったことはない。	運営推進会議を定期的に関わっており、積極的な情報の提供が行われています。また、家族等の意見を取り入れ、運営に活かしている様子がかがえまします。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市内の事業所連絡会に出席。協力という点では、管理者がキャリアを活かして、高槻市障害認定審査員を委任され審査会に定期出席している。	立地条件や、防犯上の観点から、市への相談により、安全面に配慮した体制を整えておられます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束廃止をうたい、実践できている。玄関の鍵については、立地条件をふまえて、開設時に大阪府や高槻市の指導があり、メインの玄関は施錠している。併設施設への移動は自由。	委員会活動を通して、定期的な勉強会が実施されています。玄関は立地条件等でホーム側からの出入りは出来ませんが、本体施設側から自由に行えるように、可能な限り鍵をかけないケアを実践されています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、普段のケア会議や研修を通じ、虐待防止の徹底と、不適切ケア廃止への意識の向上を図るようつとめている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所後、権利擁護を利用開始の事例はまだないが、入所前より利用されており、継続利用している。パンフレットなどから、その方の後見人の役割などは理解している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所決定後、入所に至るまでの間に、管理者が契約書や重要事項説明書について、契約者と面談し、説明している。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、第三者外部評価受診時、アンケートは入所者全員のご家族に送付している。結果については、運営に反映できるようにしている。	利用者や家族からの意見はホーム全体の事と捉えて、運営に反映されています。また、家族訪問時には職員から話しかけて、意見や要望を出しやすいように配慮されています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月一回の職員会議や、行司、レクリエーションの計画策定時など、職員からの意見や提案を聞き、実現している。	年1回、代表者や管理者によるアンケートや面談が行われ、職員からの意見が出やすいように工夫されています。管理者、ケア実践者との信頼関係が築かれている様子がうかがえます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設施設であるため、併設の他の事業所の職員とも交流を図り、代表者は実績や勤務状況を把握され、職員や備品の補充など職場環境の充実を図っている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や事例検討などを通し、職員の個々の力量に応じたトレーニングを行えるようつとめている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大阪府や全国認知症高齢者グループホーム協議会に加盟している。また、認知症介護実践者研修やリーダー研修の施設実習を積極的に受け入れ交流を図っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から、ご本人の不安や要望を的確につかむため、専用シートを利用し、できるだけ書き込んでいただきようとしている。また、管理者や計画作成担当者を中心に最大限耳を傾ける努力を行っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から、ご家族の不安や要望を的確につかむため、専用シートを利用し、できるだけ書き込んでいただきようとしている。また、管理者や計画作成担当者を中心に最大限耳を傾ける努力を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談時より、サービス利用の内容や開始時期など、可能な限り、利用者や家族、担当ケアマネなどとも連携を図り、調整するよう心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の姿勢としては、常に、共にある、共同生活者と視点や姿勢を忘れないようつとめている。また、つとめられるよう、管理者が指導している。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族の一員であるということ、常に意識し、ご家族との交流の場が多く持てるようつとめている。面会だけに限らず、外出や食事会、行事への参加など、可能な限り共に過ごしていただく時間を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出には、時間帯以外は制限せず、可能なかぎり、自由に行っていただくようつとめている。	防犯上、地域の実情を踏まえて、面会時間の制限を設けています。そのような中、自由に面会できるようになっており、職員も家族との対話も多く取るよう努めておられる様子がうかがえます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットという限られた空間で交流したり、関係構築には、場合によっては困難な場面もある。そんなときは、隣接する別ユニットや別事業所とも連携を図り、多くの方と交流できる場を提供している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所事例の中に、まだ、想定されている事例はないが、在宅復帰など可能であれば実現したいと考え、そのときは、最大限にフォローしていきたいと考えている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に、ご本人の意向や暮らし方を大切にしたいと考える。また、日々のふれあいの中で、ご本人の考え方や思いを把握し、必要であれば、実現に向けてご家族にも協力を要請したりしている。	入居者、家族の意向を積極的に伺い、支援する体制を取っておられます。ホームらしさを出していくためにも、その場その場の意向をタイムリーにとらえていこうとしておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	聞き取りや書面を通し、暮らし方を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を通し、心身の状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、必ず複数のスタッフや管理者、医師も交え、ご本人、家族を中心にした介護計画作成に努めている。	多職種協働の流れが出来ており、各職種からの専門的意見を取り入れつつ、入居者、家族の意向をくみ取った生活の実現のために努力されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的な介護記録のほかに、心身の状態に合わせては、別紙の記録用紙を利用し、的確に状況が把握できるよう記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分に多機能化が図られているとはいえない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協働には至っていない。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身近なかかりつけ医の設定。市内の認知症疾患センターの専門医との連携を密にし、受診診断を支援している。	入居時に係りつけ医の希望を伺い、希望される方は継続して受診できます。また、近隣の医療機関との受診においてはスタッフが同行し、医師との連携が密に取られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職員は介護職員と兼務し、常勤職員として配置。管理者も看護師であることから、夜間、休日とはず、連携可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院と連携を密に、入院後の状態把握に努め、早期退院、受入れに配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意向を最優先にし、ご家族とも話し合い、主治医と連携を図っている。また、要望があれば、併設施設への入所も可能であり、状態に応じ、選択肢を多く提示できるようにしている。	ホームでの看取りや重度化した際の受け入れ体制が可能で説明もなされています。その上に母体法人に他事業がある強みがあり、連携と選択の幅を広げ、安心して生活できるようになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通し訓練している。また、個々の利用者において予測できる変化があれば事前に周知し、そのときの対応方法などを示すよう心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設とは常に連携が図れるようにしている。地域との連携については、模索中。	法人全体での防災訓練を年に2回、実施されています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>尊厳を守る配慮に心がけている。</p>	<p>認知症についての勉強会を実施し、人格の尊重、プライバシーの保護にとりくまれています。普段から、尊厳を大切にしたい声掛けを実際にされ、適切に対応されている様子が見えます。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご本人の思いに沿った支援を心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にしている。</p>	<p>基本的に自由に一人ひとりのペースで生活を支援するよう努力されていますが、お年寄りの暮らしを支援するという面で管理するのではなく、自由度の幅を持たせたいとすすめておられます。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>理美容や衣服の選択など、ご本人の意向や要望を大切に支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の調理は、基本、特養の厨房にお願いしているが、ご飯を炊いたり、おつゆを温める、副菜の盛り付け、後片付けなど、利用者が可能な限り携われるように支援している。</p>	<p>副菜の盛り付けや、食後の片付けは個々の状態に配慮しながら、支援されています。食事は併設施設である特養の厨房で作られているが、その事を活かし、刻み食や療養食の提供も可能となっています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量や水分量の把握に努め、必要量を確保できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>日々の口腔ケアは、スタッフが行うが、週一回の歯科往診時、歯科衛生士による口腔洗浄など受けることができ、清潔を保っている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>各居室にトイレが設置されており、昼夜問わず、個々の排泄パターンに応じた対応ができる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>管理栄養士の指導の下、便秘解消に役立つ献立作りを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個浴にて入浴している。今後の課題としては、入浴回数を増やすことや、夜間入浴ができる日課作りを行っていきたいと考えている。</p>	<p>決められた日課通りの入浴に課題を感じておられます。一人ひとりの生活を再分析し、その人らしい入浴のあり方について夕方も含め、可能な範囲で見つめ直したいと考えておられます。</p>	<p>現在個々のこれまでの生活リズムに近い入浴の提供が出来るように、業務の見直し等を検討されていますので、利用者にとってより良い入浴の提供が出来るよう期待します。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>居室や共同の場でも、ご本人が好んで、休息できる場の提供を心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>看護師を中心に服薬管理を行い、服薬に関する支援を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の役割や楽しみごとの支援に努めている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>外出支援に関しては、集団で出かけることが多かったが、今年度からは、個々の日常的な外出を試みたい。</p>	<p>可能な範囲で、近隣の公民館などに出かける事を支援されています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常生活の中での金銭の個人の所持についてはお断りしている現状がある。外出時は、個々に支払いをお願いしたりしている。(預かり金の中から)</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を所持していたり、公衆電話利用の希望があれば支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空間づくりには、館内全体に配慮している。</p>	<p>季節の壁面画や、行事の写真などがわかり易く掲示されており、色調も温かみがあります。採光や電球色にも配慮された上に、ソファなどを置いてゆったりできるように工夫されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室以外でも一人になったり、少人数でも談話できるスペースを設けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は、ご本人の私物を持ち込んだり、ベッドや家具の向きも、ご本人の好みに合わせて移動可能。</p>	<p>居室内は利用者や家族と相談しながら、ベッドの位置などを変える事が出来ます。その他にもテレビや、家具も持ち込め、個々が過ごしやすいように、配慮されています</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの能力を活かした支援を心がけたいと考えていますが、まだ、十分ではありません。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	①	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	④	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	③	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	②	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない